

岩崎地区住民アンケート調査結果報告書

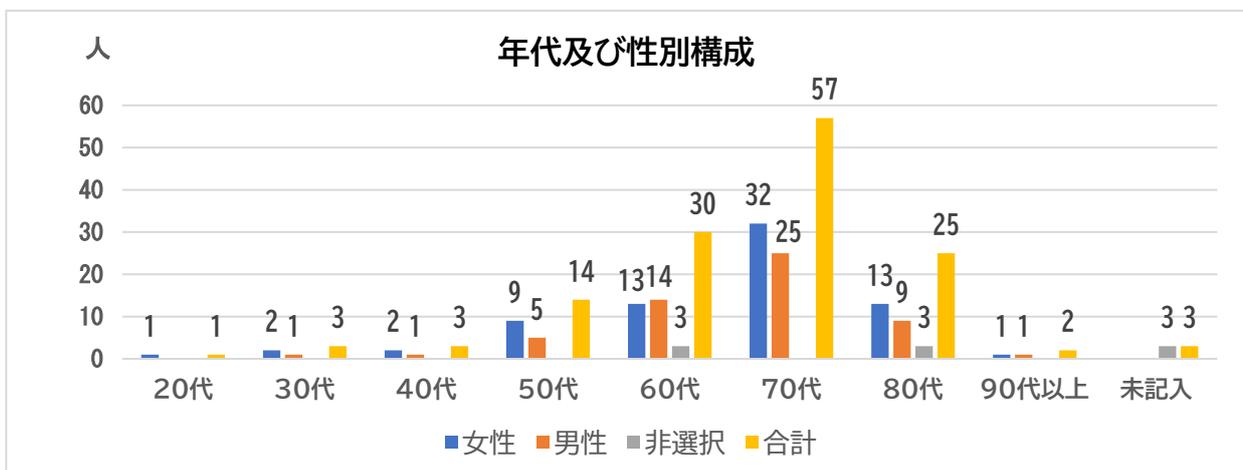
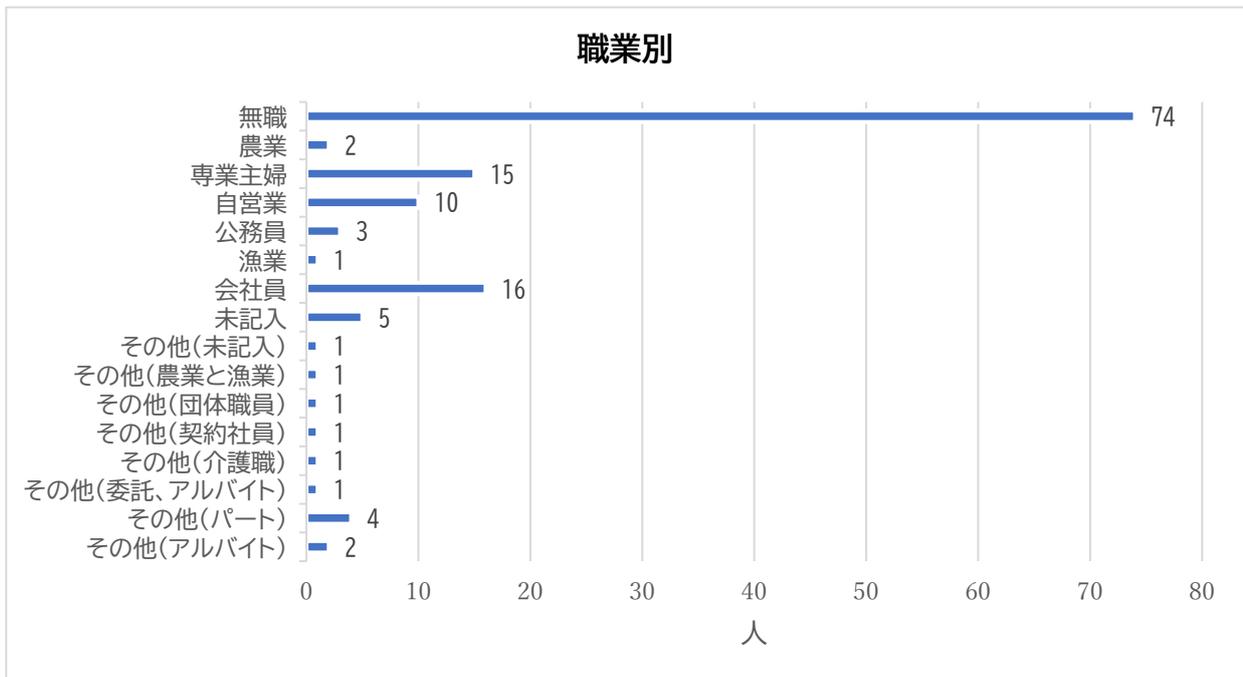
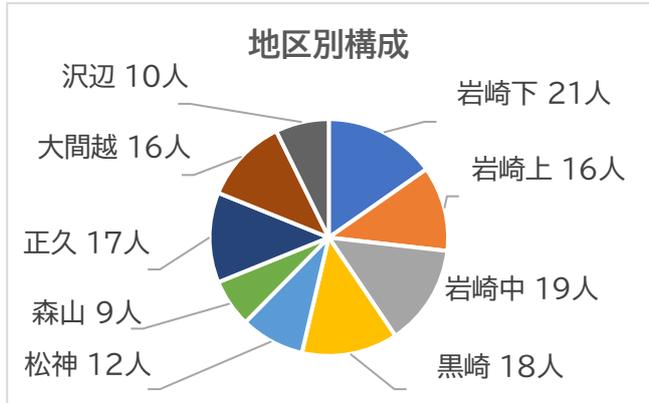
【アンケート調査の概要】

このアンケートは、岩崎地区の住民が地域に対して必要としていることや要望、暮らしの不安などを把握することを目的として実施されました。調査は岩崎地区の759世帯を対象に行われ、138世帯から回答を得ています。(回答率：18.1%)

問1から問4までの回答者の属性を見ると、性別は女性が53%とやや多く、年代別

では70代が41%、60代が22%、80代が18%と、60代以上が全体の8割以上を占めています。

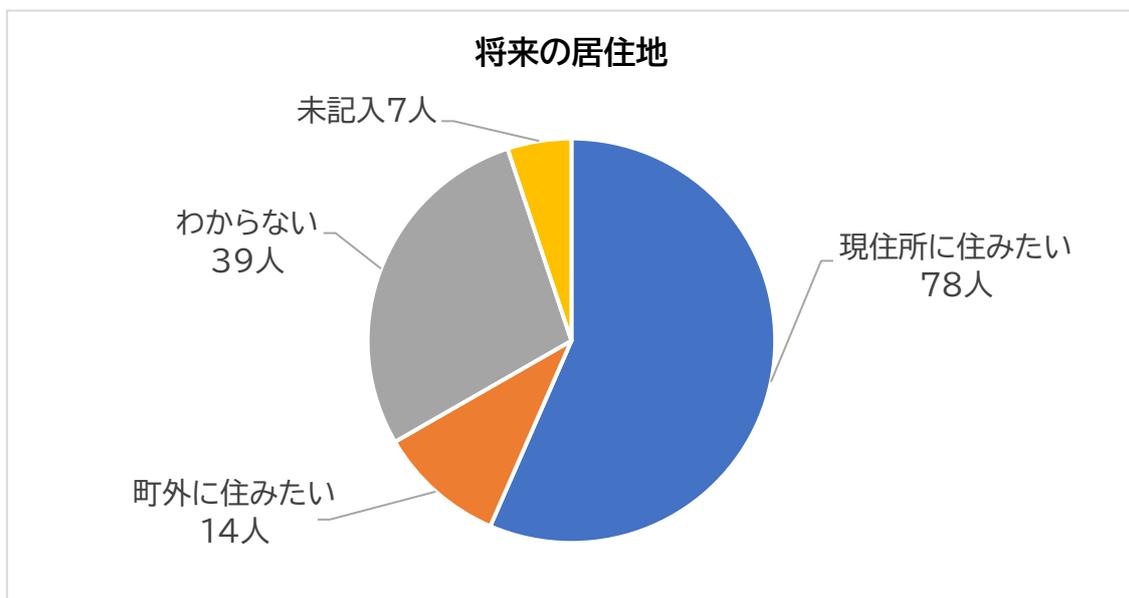
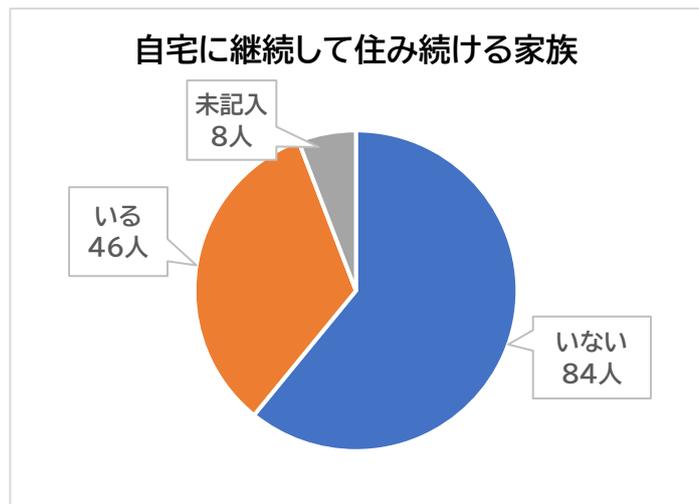
また、職業は無職が54%と半数を超えており、回答者は主に高齢者層であることが分かります。



問 5・6 将来の居住に関する意向

将来的に家を継ぐ家族が「いない」と答えた人が 61%にのぼる一方、57%は「現住所に住みたい」と回答しています。

この結果から、後継者不在の不安を抱えながらも、住み慣れた地域への強い愛着がうかがえます。自由記述では、「運転ができなくなったら無理」、「買い物や病院が不便」といった声もあり、生活の利便性、特に移動手段の確保が定住の大きな条件となっていることが示唆されます。



★キーワード 後継者がいない、地元愛着、定住したい、生活利便性への不安、移動手段の確保

★居住地の理由について、47件の記述がありました。主な理由は下記のとおり。

【現住所に住みたい理由】

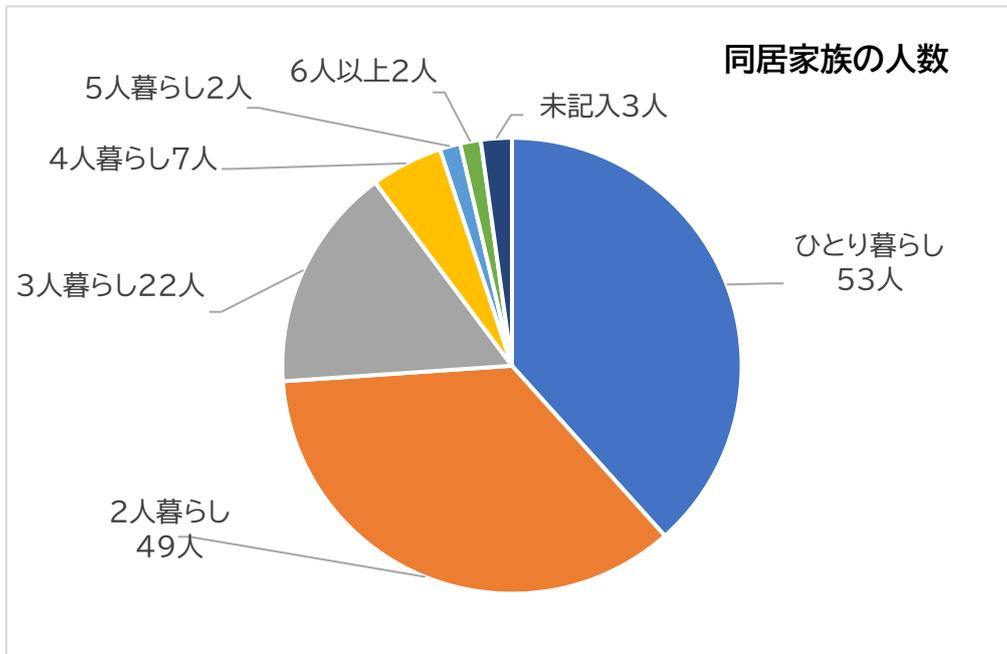
- 住みやすいから
- 景色がいいから
- 考えたことがない
- 生まれた場所だから
- 空気もいいし、人も優しい、自然の食材も多くある
- 町外に住むのは不安だ
- 海、山があり、自然豊かで住み心地がいい。
- 畑など大好きな事ができるから
- 岩崎地域が大好きだから
- 知り合いや相談相手が近所にいるから
- 住み慣れたところから離れたくない

【町外に住みたい理由】

- できるなら町外に住みたい(スーパー、病院が近くにあるから)
- 車の運転ができ無くなれば、子供の所へ行く
- 住みたい場所は、「能代市」、「鱒ヶ沢町」、「五所川原市」、「青森市」などがありました。

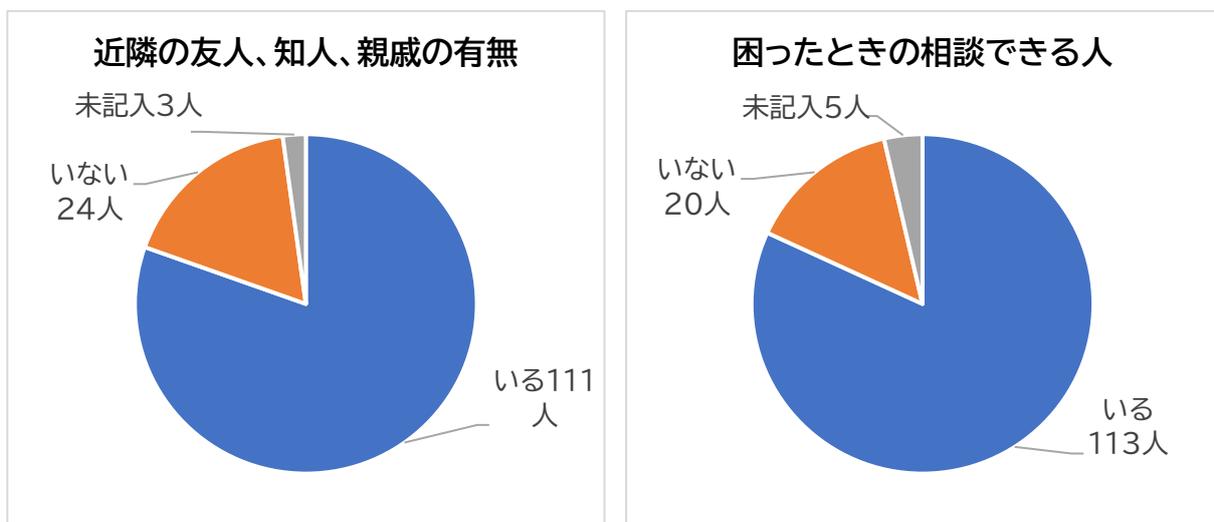
問 7 同居家族の人数

「ひとり暮らし」(38%)と「2人暮らし」(36%)を合わせると、全体の74%が単身または夫婦のみの高齢者世帯であると推測されます。これは、災害時などの緊急時における支援体制の重要性が高いことを示しています。



問 8・10 地域でのつながり

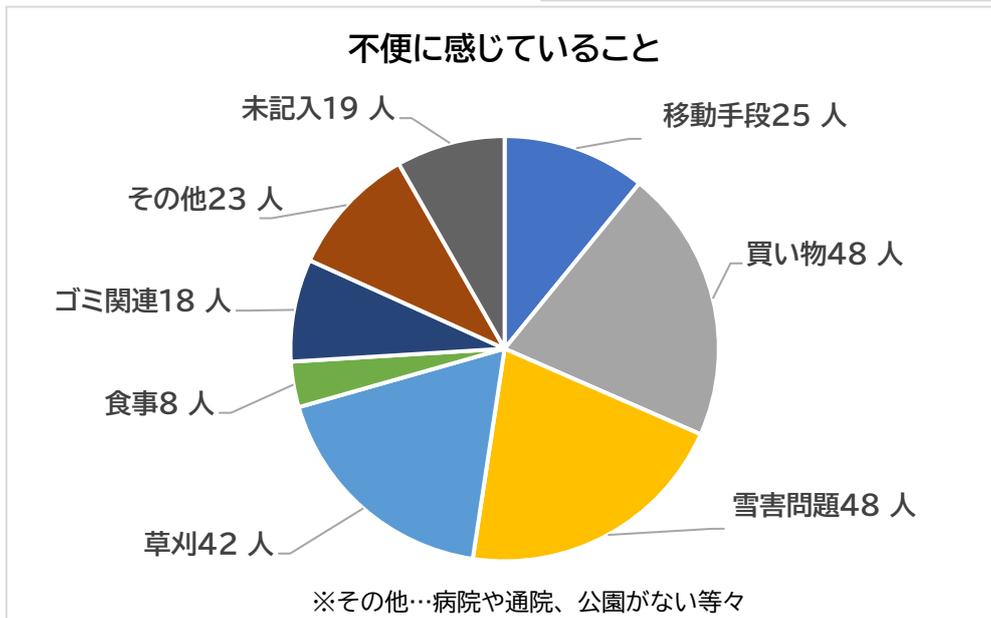
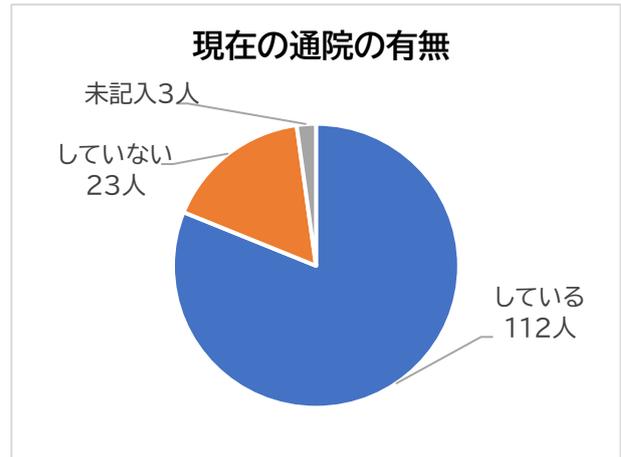
「近隣に行き来する友人・知人等がいる」が81%、「困ったときに相談できる人がある」が82%と、多くの住民が地域内で孤立せず、適度にコミュニケーションを取っていることがわかります。これは地域の大きな強みです。住民同士の支え合い（共助）の基盤となります。ただし、約14%は相談相手が「いない」と回答しており、支援が必要な層も一定数存在します。



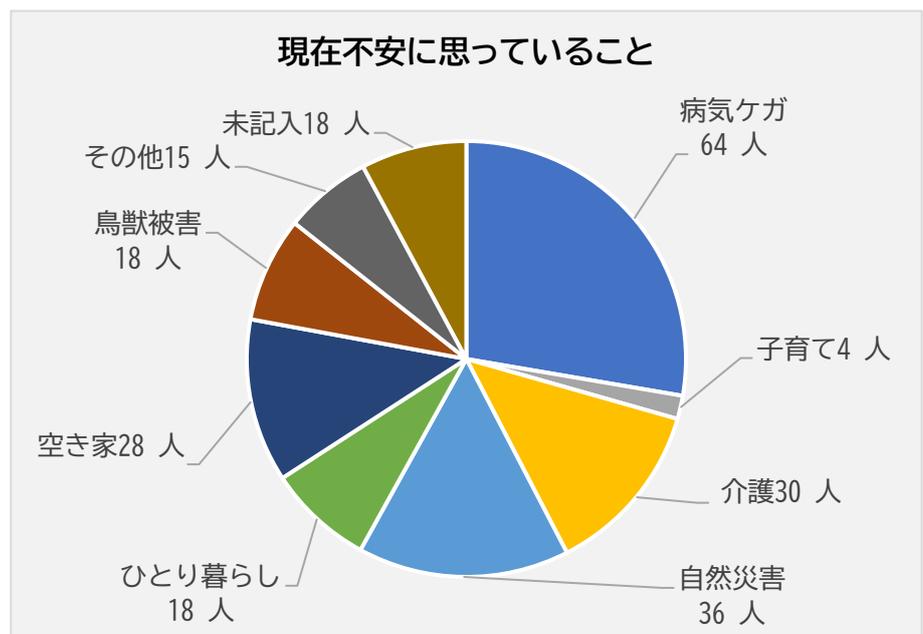
キーワード: 地域コミュニティ, 近所付き合い, 人的ネットワーク, 共助, 社会的孤立の懸念

問 9・11・12 生活上の不便と不安

不便なことで最も多く挙げられたのは「買い物」(21%)と「雪害問題」(21%)で、次いで「草刈り」(18%)でした。自由記述には「車がないと何もできない」、「店が遠い」といった買い物や移動に関する意見や高齢化により「雪かきや草刈りが体力的につらい」という声が多数見られます。生活インフラの課題と、高齢化に伴う身体的な課題が大きな不便さの原因となっています。



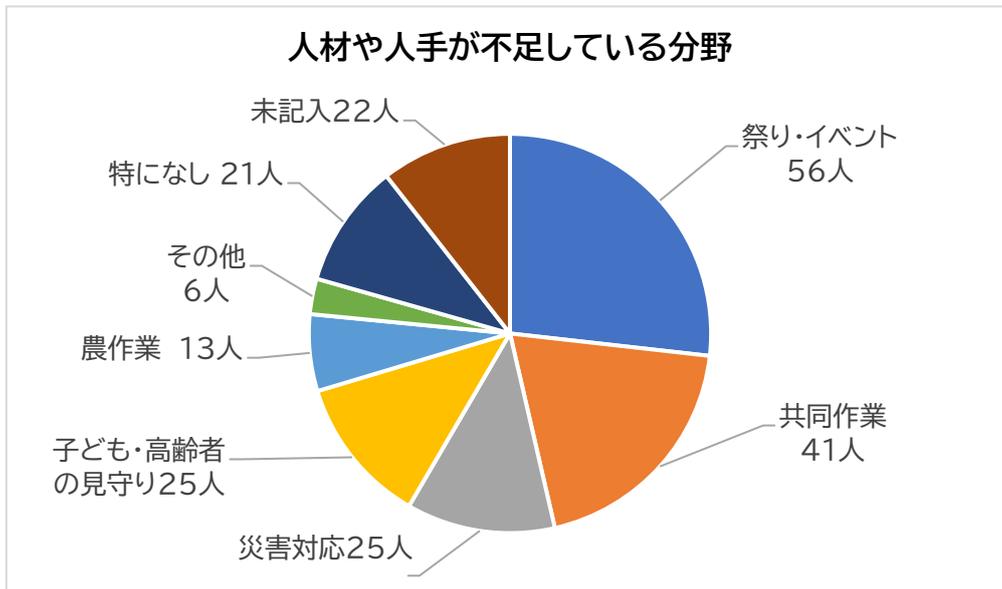
不安なことでは、「病気・ケガ」(28%)が最も多く、自身の健康への不安が一番大きいことが分かります。次いで「自然災害」(15%)、「介護」(13%)、「空き家」(12%)と続きます。自由記述からは、大きい病院が遠いことへの不安や、災害時の避難への心配、近隣の空き家の倒壊リスクなど、個人的な問題から地域全体の問題まで多岐にわたることがわかります。



※その他…通院、ゴミ問題、子ども・若者が少ない

問 13 人材・人手不足の分野

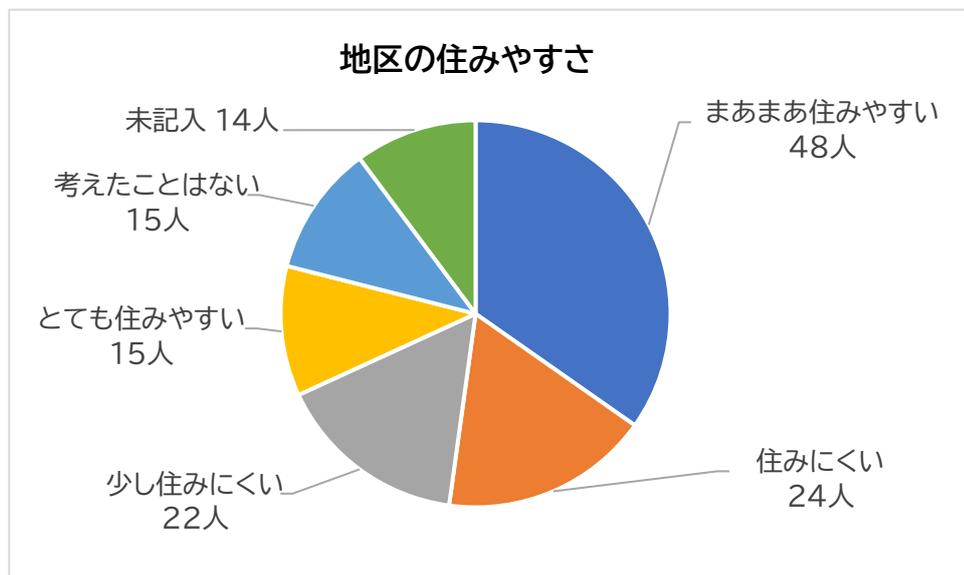
「祭り・イベント」(27%) と「地区での共同作業」(20%)で人手不足を最も感じているようです。これは、地域の伝統文化やコミュニティ活動の維持が困難になってきており、地域の活力を支える「担い手」の不足が課題としてあげられます。



その他の意見としては、「コンビニがない」、「今のところないが将来的に不安」、「困りごとを誰に頼んでいいかわからない」などの意見がありました。

問 14・16 地区の住みやすさと魅力

「住みやすい」(46%) と「住みにくい」(33%) の意見が分かれました。主な住みやすい理由・魅力としては、「自然が豊か（海、山、景色）」、「食べ物が美味しい」、「人が優しい・近所付き合いがある」、「静か」といった点が多く挙げられています。一方で、住みにくい理由としては、一貫して「買い物、病院、交通の便が悪い」ことが指摘されています。自然環境や人間関係といった情緒的な価値は高く評価されていますが、生活の利便性の低さが大きなマイナス要因となっています。



問 15・17・18 楽しみと希望する活動・イベント

●楽しみ

「畑仕事」、「友人との交流」、「グランドゴルフ」、「山菜採り」など、地域の自然やコミュニティに根差した活動に楽しみを見出している人が多いです。

●やってみたいこと

「料理教室」、「カラオケ」、「高齢者と子供の交流」など、気軽に参加できる学びや交流の場へのニーズがあります。

●復活してほしいイベント

「十二湖まつり」、「盆踊り」など、かつて地域を一体にした大規模イベントの復活を望む声が非常に多く、地域の活気や連帯感を醸成することが期待されています。

◆キーワード

地域資源の活用、多世代交流、学びの場、イベント復活への期待、地域の活力

問 19 自由意見・提案

これまでの設問で明らかになった課題に対し、住民から具体的な提案が寄せられています。主な意見としては、「買い物施設の設置や移動販売の要望」、「コミュニティバスやJRの利便性向上」、「空き家対策」、「使われていない公共施設の有効活用（子どもの遊び場など）」、「医療・介護体制の充実」など、行政への具体的な要望が目立ちます。住民が主体的に地域の課題解決を考えている様子がうかがえる、貴重な意見が多くありました。

◆キーワード

買物支援、交通手段改善、空き家対策、公共施設の利活用、子育て支援、医療・介護の充実